

巨大地震の発生を想定した設計地震動の評価

田中浩平 坂井公俊 室野剛隆

平成24年に鉄道構造物等設計標準・同解説(耐震設計)が改訂され、簡易な手法で算定するL2地震動(標準L2地震動)の適用範囲が明確化されました。建設地点が、これらの条件に該当しない場合には、強震動予測手法によりL2地震動を算定する必要があります。日本では、南海トラフの巨大地震をはじめとする巨大な海溝型地震や、Mw7.0を超える内陸活断層による地震が複数想定されています。本報告では、四国地域を対象として、強震動予測手法により、震源特性や伝播経路特性、サイト増幅特性を考慮した地点依存の地震動評価を実施した事例を報告します。さらには、評価された波形群を参照地震動として、ターゲットとする所要降伏震度スペクトルに適合する地震動を

作成した事例を報告します。最終的に作成された設計地震動は、地点依存の地震動評価結果と構造物の非線形応答に配慮した設計地震動となることを確認しました。

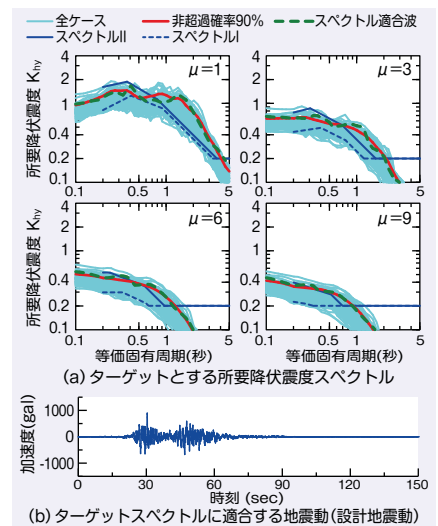


図 南海トラフの巨大地震に対する K-NET 須崎の設計地震動